

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置							
(1) 入学者の確保	① 種々の手段により、積極的な広報活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内組織として新たに広報室を設け、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。</li> <li>・広報対象とする地域、団体ごとに有効な広報策を検討し、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</li> <li>・地域の中学校長会や県教育委員会並びに学習塾等との連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議において、広報の一元化など広報のあり方を検討した結果、広報全般についての活動を行う新たな組織としてH25年度から広報室を設置した。</li> <li>・地元ケーブルテレビ(中海テレビ:「県民チャンネル」)で「米子高専・知的セミナー」という番組を放送し、本校教員の各専門分野を中心に多彩な学問的蓄積を地域社会に情報発信し、還元した。(毎月放送済(バックナンバーはHPで閲覧可能))</li> <li>・鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専の特色などPRを実施した。(5月、6月実施済)</li> <li>・鳥取県内及び鳥根県松江市・安来市の中学生1年生～3年生に学校案内パンフレット(短縮版)をエンジョイ科学館の案内に同封した。(6月実施済)また、近隣の市町村教育委員会、図書館及び公民館に配布し広報活動に努めた。(3月実施済)</li> <li>・新入生アンケート結果をまとめて、学科長会議で公表し、今後のPR活動他について検証した。(5月実施済)</li> <li>・在校生(特に寮生)による出身中学校訪問を従前どおり実施し、出願状況を検証した。(3月実施済)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な入学者を安定的に確保するための方策を検討し、実施する。</li> <li>・専攻科の志願者数の持続的確保が重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報室を通じて、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。</li> <li>・広報対象とする地域、団体ごとに有効な広報策を検討し、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部</li> <li>専攻科</li> <li>広報室</li> </ul>
	② 入試説明会、オープンキャンパス等を充実させ、志願者確保に向けた取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏と秋の年2回のオープンキャンパスを開催し、参加者数と入学志願者数との関連性等を分析する。</li> <li>・中学校関係者を招いた入試説明会を実施するとともに、学校単位での訪問見学も受け付ける体制をつくる。</li> <li>・入試説明会の他高専との共同開催について検討し、合意が得られた高専との共同開催を試行する。</li> <li>・在校生による出身中学校訪問活動(女子中学生の理系進路選択支援事業も含む)を実施するとともにその効果を調べる。</li> <li>・本科3年生の全体ホームルームや4年生の就職懇談会で学生および保護者に対して専攻科のPRを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目のオープンキャンパスを実施した。これまでで最大の参加人数であった。また、第2回目のオープンキャンパスも実施した。(8月、11月実施済)</li> <li>・本校の入試説明会を、5月と9～10月の間に5会場で開催した。</li> <li>・学校単位での訪問見学を受け付ける体制を整えた。</li> <li>・入試説明会の他高専との共同開催について今後も検討する。</li> <li>・在校生が出身中学校に訪問し、講演を行った。(9月実施済)</li> <li>・女子学生が出身中学校を訪問し、女子学生確保のための理系PRを行った。(4件)(8～9月実施済)</li> <li>・本科3年生への専攻科のPRは1月のLHRにて、4年生へのPRは3月の就職懇談会にて実施した。(1月、3月実施済)</li> <li>・本科4年生、5年進路未定者に対し保護者懇談会において専攻科のPR用パンフを配布した。(7月実施済)</li> <li>・本科4年生の希望者に専攻科説明会を行った。(12月、1月実施済)</li> <li>・改訂版の専攻科のPR用パンフを後期中間成績とともに本科4年生の保護者宛に郵送した。(12月実施済)</li> <li>・最近の入学志願者数の動向調査を行い、県外が増加、東中部が横ばい、西部で減少、全体でやや増加であることがわかった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年オープンキャンパスを実施するとともに、開催方法も含めて検討する。</li> <li>・専攻科のホームページやパンフレット等の広報資料の充実を図るとともに、本科生やその保護者に対して専攻科のPRを実施する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部</li> <li>専攻科</li> </ul>
	③ 中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容・在り方を見直し、統一的な広報戦略を立てる。</li> <li>・校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。</li> <li>・新入生アンケートで入試広報資料の有効性を検証し、中学生向けパンフレット等の充実を図る。</li> <li>・専攻科やJABEEに関するHPを随時刷新するとともに、広く内外に情報発信する。また、学術発表会等での専攻科生の受賞などのトピックスを専用掲示板を設置して適宜掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報室長を中心として、広報室打ち合わせを頻りに開催し、情報の共有化を図った。(9回開催。その他メール等による情報共有も行った)</li> <li>・情報発信に関しては、学校広報紙として従来より発行している『産名通信』を、各学科・教養教育科選出の広報連絡員を加えて検討・編集作業を行い、高等教育機関としての本校のPRに資するような内容とするよう努めた。(7月、10月、12月、3月発行済)</li> <li>・新たな取り組みとして、広報室が主体となってマンガという新たなメディアから中学生向けの広報活動に着手した。具体的には、松江高専等との連携による「マンガで伝える『エンジニアの姿』」事業に参画し、本校OGをモデルにその中の1作品を制作した。(8月取材済、3月完成済)</li> <li>・校外向けHPのリニューアルの検討は、各学科・教養教育科からHP委員を選出してもらい、検討会議を開催して現状や更新の必要性などについて検討を行った。(1回開催)今年度は、保守契約が切れていたHPサーバの更新を優先することとし、ルータ2台、サーバ1台を購入するとともに、校内HPを新サーバに移行した(3月実施済)。</li> <li>・校外向けHPに、国際化に対応して、英語版の本校案内を作成し、新規に作成した。(3月実施済)。</li> <li>・中学生向けパンフレットは、学校案内パンフレットをA4版及び短縮版の2種類を作成したうえで、本校卒業生のフォローアップ調査を基としたマンガ広報による冊子も作成し3月完成した。今後に向けた広報活動に利用し、広報の充実を図る。</li> <li>・効果がみられる各種パンフレットについては、従来どおり作成した。</li> <li>・専攻科生の受賞などのトピックスをホームページにアップすると共に、専攻科PR用掲示板に貼り出し、広く情報発信した。(その都度実施済)</li> <li>・専攻科カリキュラム改訂に伴う専攻科ホームページ等の更新を実施し、情報発信した。(3月実施済)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容・在り方を見直し、統一的な広報戦略を立てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>広報室</li> <li>教務部</li> <li>専攻科</li> </ul>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
④ アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。	・入試選抜方法改善後の入試倍率や入試成績の変化等を調べる。 ・前期中間、前期末、後期中間、学年末試験の成績について、新入学生の成績追跡調査を行う。	・入試選抜変更後の倍率と入試成績の変化を調査したが、大きな変化はなかった。また、学力試験における面接の廃止の影響も見られなかった。 ・最近の入学志願者数の動向調査を行い、県外が増加、東中部が横ばい、西部で減少、全体でやや増加であることがわかった。 ・本年度の前期中間試験結果について前期中間試験分の影響について、教務担当の部会内で検討したが、大きな影響は見られなかった。前期末試験の結果については、入試委員会に諮り、現行の入試方法に問題がないことを確認した。(11月実施済)  ※H24年度からの入試(学力選抜)選抜方法改定に伴う影響を把握するため、内申点・入試成績や入学後の新入学生学力診断テストの結果との相関・年度ごとの推移を検討し、その影響や入学者学力レベル向上につなげるべく調査を継続している。その結果、入試選抜法改定に関する影響はほとんどなく、内申点と入学後の成績に相関係数R=0.6程度の相関があることが判明した。		・入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校のアドミッションポリシー、教育目標を適切に伝える。			教務部
⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、可能な限り本校を第一志望とする入学志願者を維持する。	・県内及び周辺地域の中学校を適宜に個別訪問し、高専教育への理解の促進と入学志願者増を図る。 ・学習塾への情報提供の効果を検討した上で、校外への進学情報提供を行う。 ・県内外の広い地域を対象に、中学校に対するきめ細かな学校説明会を年2回行う。	・県内及び周辺地域の中学校を随時個別訪問し、高専のPRIに努め入学志願者増を図った。 ・県内及び周辺地域の中学校の高校説明会に随時参加し、学校説明を行った。 ・校長と特命教育コーディネータを中心に東部地区、中部地区、西部地区の塾の進路説明会に参加した。(7月、9月実施済) ・鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専の特色などPRを実施した。(5月、6月実施済)		・物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討する。 ・利用者のニーズ、寄宿舎の生活環境等を調査し、寄宿舎に関する中・長期計画策定の基盤を作成する。			教務部
① 15歳人口の減少傾向や産業ニーズの動向など地域の实情に合わせて、専攻科の整備・充実を行う。	・モデルコアカリキュラム導入に向けての検討を続ける。 ・H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについては、H24年度に検討され学内で審議・承認された専攻科カリキュラム改定内容をもって、H25年9月に学位授与機構へ申請し改定の手続きを行う。	・モデルコアカリキュラム導入については、本部から提示された内容と本校のカリキュラムとの整合性について再度確認した。 ・教務関係教員がいくつかのモデルコアカリキュラムについての研修会に参加した。(12月～3月実施済) ・H24年度から学内審議・承認されていた専攻科カリキュラム改定に関する申請手続きについて運営会議にて了承された。(6月済) ・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請を行い学位授与機構の承認が得られた。(9月実施済)  ・専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを次年度当初に実施すべく資料作成・準備作業を行った(3月実施済)。	・少子高齢化や予算の漸次削減等を見通した学科再編・コース制や教育課程の高度化に関する検討を始める。 ・引き続きコアカリキュラムの検討を行う。  ・継続的に教育の質の向上を図ることが重要である。  ・技術者として必要とされる英語力を伸長させることが重要である。	・15歳人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の实情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。  ・複合システムデザイン工学プログラムのJABEE中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上を図る。 特例適用専攻科認定の申請を行う。			教務部 専攻科
②産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科再編の検討を行う。	・卒業・修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応策を検討する。 ・昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、継続的に教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行う。	・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請・承認が得られた。また、特例適用専攻科認定申請のため専攻科のカリキュラム(特別研究等)を改定した。(3月実施済) ・カリキュラム改訂に伴い複合システムデザイン工学プログラムについて学習・教育到達目標や科目関連表の改訂を行った。(3月実施済)  ・企画部教職員アンケートの結果から、教職員の89%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。(2月実施済) ・企画部学生アンケートの結果から、専攻科生の80%以上および本科5学年の60%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施)		・定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会や運営会議にて審議の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。			企画部 教務部 専攻科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
(2) 教育課程の編成等	<p>③ 入学時の基礎学力を把握するための試験を実施するほか、各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行う。また、英語については、検定試験等を積極的に活用して、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。</p> <p>・本科3年生を対象として全国高専共通の学習到達度試験(数学・物理)を実施する。  (1) 結果に関する情報を教養教育科と専門学科間で共有し、到達度向上策を検討する。  (2) 学習到達度試験対策として本校の数学教室で作成した3年生対象の復習問題集を改訂し、授業で使用(後期)。  (3) 課題や定期試験、e-ラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高める。  ・編入・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行う。  ・3年生におけるTOEIC全員受験を実施するとともに、CALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図る。  (1) 1～3年生に英単語コンテストを実施し語彙力の増強を図る。  (2) 年度末にTOEIC400点以上の学生を調査し、学外向け広報誌(彦名通信)に公開する。  (3) 本年度末までに専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、専攻科生の英語力について各年度推移をデータベース化する。</p>	<p>・全国共通の学習到達度試験を実施した。(1月実施済)また、CALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図った。  ・本科3年生に対し、TOEIC受験を補講期間に実施した。(2月実施済)  ・専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、データベースに追加した。(3月実施済)  ・科目間連絡会「専攻科の英語教育について」を実施し意見交換した。(10月実施済)  ・1～3年生に語彙学習用テキストを用いて、学年ごとに学習単語数を定め、授業ごとに確認テストを行って英語語彙力の増強を図った。英単語コンテストを実施し、学習成果の確認を図った。  ・後期に学習到達度試験の模試を実施し、その結果の分析を行った。  ・学習到達度試験対策として、本校数学科で作成した3年生対象の復習問題集を改訂した。後期から、授業で使用した。  ・課題や定期試験、e-ラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高めた。  ・編入・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行った。  ・評議員会の指摘も受け、TOEICスコアアップを目指したTOEIC受験対策に関する英語講座等の学習支援実現を来年度に模索して行く。  ・学習到達度試験の分析結果や原級留置学生数等を考慮し、1～3学年の低学年に向けた学習支援施策の見直しを図り効果の拡大を検討する。</p>		<p>・入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。  ・昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、学生の学習到達度が向上する教育を検討し、実施する。  ・TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討する。  ・外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸長に関して情報交換する。</p>			<p>教務部 専攻科 キャリア支援室 教養教育科</p>
	<p>④ 卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p> <p>・在校生への授業評価アンケートを実施してその結果を校内ホームページで公開する。  ・授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の研修(授業参観)に活用する。  ・授業評価アンケートの結果などをもとに、教員や技術職員などを対象としたFD研修会を企画する。  ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。  ・本科とともに専攻科でも7月～8月上旬に前期授業アンケートを、12月に後期授業アンケートを実施し、2月に授業アンケートの結果を校内HP上で公開する。</p>	<p>・前期については、在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページにて公開した。また、後期についても授業評価アンケートを同様に実施し、校内ホームページに公開した。(2月実施済)  ・次年度の授業改善のため、非常勤講師にも公表を行った。(3月実施済)  ・中国地区教員研修会(着任後概ね5年)を実施し、これを低学年担任FD研修と位置付け、担任としての日常的な諸問題および課題活動における諸問題に関する研修を行った。(3月実施済)  ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した。(11月実施済)  ・本科とともに専攻科でも学生への授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページに公開した。(2月実施済)  ・地域の産業構造やニーズ、また本校の入学志願者状況などからみて、当面の間大括り化やコース制の導入は考慮しなくてよいものと判断している。  ※定期的に授業評価アンケートが実施され、各担当教員の授業改善の目安となっている。アンケート結果が平均を下回る授業科目担当には、教務担当校長補佐より改善指導・助言を行うシステムが機能している。</p>		<p>・継続して在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。</p>			<p>運営会議 教務部 専攻科</p>
	<p>⑤ スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボコンコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。</p> <p>・全国高専デザインコンペティション及び全国高専将棋大会を主管校として実施する。  ・中国地区高専体育大会、中国地区英語弁論大会を開催する。</p>	<p>・全国高専デザインコンペティションを実施し、大臣賞2つを含む7つの賞を獲得し、建築学科のHPに公表した。(11月実施済)  ・中国地区高専体育大会6種目を実施(7月)  ・全国高専将棋大会を実施(8月)  ・中国地区高専体育大会冬季大会(ラグビー)を実施(11月)  ・中国地区英語弁論大会を実施(11月)  ・学生の優れた課外活動の結果については、掲示・HPでPRするとともに、特に優れた全国規模の活躍については、垂れ幕を作成し学外へアピールした。</p>		<p>・引き続きロボコン・プロコン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>			<p>学生部</p>
	<p>⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動を奨励する。</p> <p>・鳥取県主催の白砂青松アダプトプログラムに学生・教職員がボランティアとして継続参加し、雪害を受けたリヶ浜海岸の松林の再生事業に取り組む。</p>	<p>・白砂青松プログラムのボランティア活動として松林の整備・清掃を実施した。(5月実施済)  ・整備した松林にHRを利用しクロマツ100本を植樹した。(11月実施済)</p>		<p>・白砂青松アダプトプログラムに継続参加する等、引き続きボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動を奨励する。</p>			<p>学生部</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
① 多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。	・優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。	・教員の学位を調査し、調査結果に基づき学校要覧に掲載した。(7月実施済) ・教員募集に当たって、募集要項の応募資格に学位や教育経験などの教育力に関する資格を盛り込んだ。(6～2月実施済)		・優れた教育力を有するものを採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。			運営会議
② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。	・各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。 ・各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定する。	・各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定した。その結果、H25年度に教員1名の派遣と2名の受入が決定し、昨年から継続と合わせ3名の受入れとなった。(10月実施済) ・引き続き、来年度も各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定する。		・引き続き、来年度も各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定する。			運営会議
③ 専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	・優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。	・優れた教育力を有する者を採用するため、教員公募にあたって募集要項の応募資格の記述を見直した。		・新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味する。			運営会議
④ 女性教員の比率向上を図る。	・各学科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ・女性教職員が利用する施設・設備の点検を行い、整備計画を策定する。 ・女性教員の働きやすい環境の整備に努める。	・教員公募に当たり、本校では男女共同参画を推進しており、業績の評価において同等と認められた場合は、女性を積極的に採用する旨を記載した。 ・平成24年度における点検/トロール結果を基に女性教職員が利用できる施設・設備の確認及び点検を行った。(10月実施済) ・今後も施設の用途変更も含め、継続的に検討し、策定を進める。		・各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ・女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室・休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。  ・インフラ整備検討委員会WGにて継続的かつ多角的に検討し、策定を進める			運営会議 事務部
⑤ ファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等に派遣する。	・教育研究水準向上および教育改善のためのFD研修会を開催し、アンケート調査などにより研修の効果を検証する。	・中国地区教員研修会(着任後概ね5年)を実施し、これを低学年担任FD研修と位置付け、担任としての日常的な諸問題および課題活動における諸問題に関する研修を行った。(3月実施済) ・新任教職員5名に対しビジネスマナー講習会を開催した。(4月実施済) ・採用3年以内の新任教員について、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した。(5月、11～2月実施済)	・双方向授業研究の実施等、新規採用教職員研修制度の充実を図る。	・引き続きファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。			運営会議
⑥ 教育活動や生活指導の活性化を奨励する。	・昨年度の授業評価アンケートおよび課外活動等、教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価して運営会議で教育研究活性化経費の配分を決定する。 ・機構主催の教員顕彰を実施し、結果を踏まえ運営会議で校長表彰の人選を行う。	・点検・評価委員会にて、昨年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行い報告者に評価結果を伝達した(9月に示達)。 ・平成25年度の教育研究活性化経費の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行い配分額を決定した(10月配分済)。 ・高専機構の教員顕彰制度の評価基準に基づいて教員を推薦し、若手部門で優秀賞を獲得することが出来た。		・機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行う。			運営会議 点検・評価委員会

③ 優れた教員の確保

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑦ 各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。	・国内外の大学等での研究・研修に関する情報をメール等で知らせる。 ・教員の国内外の大学等での研究・研修報告や国際学会の参加報告をホームページ等に掲載し公表する。 ・昨年度に交流協定を締結した韓国ソウル大学との教職員の国際交流プログラムを検討する。	・国内外の大学等での研究・研修に関する情報をメール等で積極的に知らせた。 ・交流協定に基づき韓国ソウル大学に本校から4名の教職員を派遣し、他高専から4名を同伴した。		・引き続き各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。			運営会議 国際交流
① 教育の質の向上へ向けた教材や教育方法の開発及び、創造的・実践的技術者の育成を目的としたエンジニアリングデザイン教育を推進する。	・有識者を招いて年1回教育懇談会を実施する。 ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 ・時間割・カリキュラムの検討を行い、自学自習を推進する。 ・外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育方法の改善や教材開発を進める。 ・専攻科生TAによる低学年学習支援を実施する。 ・教員による編入生学習支援を実施する。 ・授業参観を続けて実施するとともに、公開授業に発展する様に検討を始める。 ・図書館のシラバス参考書コーナーを整理・補充し、最新のものと置き換える。	・図書館情報センターの改修と関連させ、有識者を招いて「図書館の活用等について」教育懇談会を実施した。(11月実施済) ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図った。 ・時間割・カリキュラムの検討を行い、基本的に2時間連続の授業として放課後時間を確保し、自学自習を推進した。(平成23年度から実施済) ・外部資金や企業人材を活用した教育プログラムの実施を後期からスタートさせた。 ・専攻科生TAによる低学年学習支援を年4回ある中間試験及び定期試験で実施した。 ・編入生学習支援については、担任を通じて学生本人から要望を聞き、希望のあった4D学生の数学および電磁気学は数学担当教員と専門学科教員で対応した。(6月実施済) ・授業参観を実施したところ、保護者からのアンケート数も増加し、好評であった。(5月実施済) ・図書館の改修工事後にシラバス参考書コーナーを最新のものと置き換える予定であったが、図書を揃えるスペースが確保できなかったため、今年度は見送った。 ・企画部学生アンケート結果からは、図書館の早期のリニューアルオープンを望む回答が多くあった。平成26年4月にリニューアルオープンし、平日放課後を中心に多くの学生が利用している。情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度のPC端末設備更新に向けた検討を進めている。(2月実施) ・企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、73%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した。(2月実施) ・企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、87%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した。(2月実施)	教育の質の向上と改善のための方策を検討し、実施する。  ・シラバス参考書コーナーが設置されていない。	・引き続き担任制の強化・充実を図る。 ・自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。  ・シラバス参考書コーナーを設置後、図書を最新のものと置き換える。			教務部 キャリア支援室 学年主任団等 図書館 情報教育センター
② 在学中の資格取得を奨励するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を目指す。	・JABEE委員会を中心に、中間審査を必要とする複合システムデザイン工学プログラムばかりでなく、正式認定された建築学プログラムも含めてJABEE受審で指摘された事項について検討する。 ・H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについては、H24年度に検討され学内で審議・承認された専攻科カリキュラム改定内容をもって、H25年9月に学位授与機構へ申請し改定の手続きを行う。また、専門部会を立ち上げて中間審査に向けた準備を行う。 ・資格ガイドブックの製作・配布を行う。年度末に資格取得者の調査を行い、学外向け広報誌(彦名通信)に公開する。	・専攻科複合システムデザイン工学プログラムの生産システム工学と物質工学専攻のカリキュラム改定を行った。(3月実施済) ・認証評価に関する専門部会を10/21に立ち上げ済み(自己評価書案の年内作成を目標)。今後は、この部会を以てJABEE中間審査に向けた準備も併行して行う。年度内で計6回の専門部会を開催し、自己評価書原案を年度内に作成した。 ・さらに、JABEE受審に対する本校運営組織・点検組織の見直しを行った(10月に新組織の組織図および構成メンバー表を各部署・各所に示達)。本新組織の構成に基づき各部署で点検部会を開催し、年度計画に対するフォローアップ体制を定着させた(11月)。 ・資格ガイドブックの製作・配布を行い、資格取得の支援を行った。年度末に資格取得者の調査を行い、彦名通信で公開した。(6月、3月実施済) ・専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを次年度当初に実施するべく資料作成・準備作業を行った(3月実施済)。 ・企画部教職員アンケートの結果から、教職員の89%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。(2月実施済) ・企画部学生アンケートの結果から、専攻科生の80%以上および本科5学年の60%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施)	・JABEE受審を通じて継続的な教育の質の向上を図る。	・複合システムデザイン工学プログラムのJABEE中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に務める。			教務部 専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会
③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。	・大島商船高専主管で4/26、27日に開催される中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に参加するとともに、同専攻科長会議にて情報交換を行う。	・中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に28名が参加するとともに、同専攻科長会議にて情報交換を行った。(4月実施済) ・8月25～30日に茨城県つくば市で行われた「第7回アジアサイエンスキャンプ」で物質工学科3年生が日本代表として参加し、ポスタープレゼンテーションにおいて200名の参加者の中からゴールド・アワードを受賞した。 ・8月21～23日に名古屋市で行われたサマーサイエンスキャンプに物質工学科から2名の学生が参加し、物理学を利用した農学というテーマで研修を受けた。 ・11月3・4日に大阪市で行われた高校化学グランドコンテストに参加し、大阪市長賞を受賞した。 ・3月1・2日に幕張メッセで行われたサイエンス・インカレ研究発表会に参加し、独立行政法人科学技術振興機構理事長賞をはじめ多数の賞を受賞した。	・引き続き学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。	・中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に参加する。			教務部 学生部 専攻科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
④ 優れた教育実践例を研修会等を通じて共有する取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用3年以内の新任教員の授業力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。</li> <li>授業評価アンケートにおける評価が高かった授業もしくは創造教育の取り組みなどを校内の教職員へ紹介するFD研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用3年以内の新任教員について、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した。(5月、11～2月実施済)</li> <li>高専機構主催のPBL教育に関する研修を受けた教員によるFD研修を年度内に実施する予定であったが、時間確保が困難のため開催できなかった。平成26年度当初に以下のように実施した。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) FD研修会「平成25年度英語授業講義力強化プログラム参加(GompTIA CTT+取得)報告」電気情報工学科 宮田教授(H26年6月実施)</li> <li>2) FD研修会「平成25年度英語授業講義力強化プログラム 分野別到達目標に対する教育指導法とその評価～PBL教育を例として～参加報告」物質工学科 田中准教授・教養教育科 大庭准教授(H26年6月実施)</li> </ol> </li> <li>企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の75%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の72%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に52%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した。(2月実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高専機構主催のPBL教育に関する研修を受けた教員によるFD研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高専機構主催のPBL教育に関する研修を受けた教員によるFDを平成26年度の前半で実施する。</li> </ul>			教務部
⑤ 多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の準備を計画的に進める。</li> <li>学生に対する周知度・達成度・学習環境に関するアンケート調査を実施する。</li> <li>前年度実施したアンケート調査結果を校内ホームページに公開するとともに、調査結果を分析し改善案を検討する。</li> <li>評議員会において本校の教育研究活動に関する外部評価を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の準備作業を企画部主導で9月末までに進め、10/2に専門部会を立ち上げた。今後はこの部会を以て自己評価書作成などを計画的に進める。年度内で計6回の専門部会を開催し、自己評価書原案を年度内に作成した。</li> <li>H24年度の学生・教職員アンケート結果を継ぎ、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における具体的な取り組みを促した。また、この調査結果を校内ホームページに公開した(6月実施済み)。</li> <li>H25年度評議員会を開催(H25/12実施)し、H24年度(H25/6月)に達成状況をホームページに掲載)～H25/11現在までの本校の年度計画達成状況報告に対する外部有識者のご質疑・ご意見を伺い、その内容をホームページに掲載した(1月掲載済み)。</li> <li>H25年度の学生・教職員に対する周知度・達成度・学習環境に関するアンケート調査を計画的に実施(2月実施済み)し、昨年度を大幅に上回る回収率を得た。</li> <li>※留年率低減を目的として、定期試験前の学習支援体制の見直しも先行定期試験3週間前からは終了することで、定期試験直前は自主的な学習を促すように改めた。実績として利用者延べ人数369名(H24:331名)、満足度は98%が満足という結果であった。また、評議員会などのご指摘により、グローバル人材育成の一環としてTOEICスコア向上を目的として、H26年度より外部講師によるTOEIC講座を運営することを決定した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで教育の質の保証を検証し、その維持・向上に努める。</li> <li>平成26年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、その評価結果を共有する。</li> </ul>			運営会議 企画部
⑥ 可能な限り、学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップに関する講演会を開催するとともに、関連する情報データベースの充実を図る。</li> <li>鳥取県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等とのタイアップによりインターンシップ教育の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの更新・追加などインターンシップ情報データベースの充実を行い、学生のインターンシップ活動を支援した。(5月～6月実施済)</li> <li>インターンシップに関する講演会を、4年生に対しては4月に、3年生に対しては2月に開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認を行った。(その都度実施)</li> <li>県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実を図った。(その都度実施)</li> <li>4年担任および進路指導教員の協力を得て、5月中旬から6月中旬にかけてインターンシップ情報を作成した。インターンシップ前(8月)にガイダンスを実施し、インターンシップの意義の再確認と諸注意を行った。インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせする他、国の就活ガイダンスなどを活用した。(その都度実施)</li> <li>※今年度も昨年度に引き続き準学士課程第4学年および専攻科課程第1学年のほぼ全員がインターンシップに参加し、企業からの研修報告書、校内発表会などの審査を得て単位獲得をすることが出来ている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ情報の充実を図る。</li> <li>県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業界と連携した共同教育を検討する。</li> </ul>			教務部 キャリア支援室

④ ⑤ ⑥ 教育の質の向上及び改善のためのシステム

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑦ 企業人材を活用した教育体制を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3、4学年の科目で、企業のエンジニア等(本校BOGも含む)を講師として招き講義・授業を行う。</li> <li>・企業人材を活用した最先端技術(EV、電力関連分野など)の講演会を実施し、意見聴取を行ってその効果を検証するとともに、専門科目における教育内容の刷新を図る。</li> <li>・本校学生に対して「iPad/iPhone向けアプリケーション開発入門」の講習会を実施し、同時に公開講座として一般市民にも開放する。</li> <li>・H24年度まで開発に携わった「鳥取県EV人材育成カリキュラム」等を活用し、地域の産業振興に資する実践的技術者育成のための体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を12件実施した。また、その都度アンケート調査を実施し、教育内容の刷新に向けた検討を行った。(その都度実施済)</li> <li>・「鳥取県EV人材育成カリキュラム」のうち、建築学科で「第18コマ:電気自動車をふまえた次世代のまちづくり」を活用した講義を実施した。(1月実施済)</li> <li>・機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った。</li> <li>・電気情報工学科ではEV技術者による講演を実施できた。(1月実施済)。強電系選択志望の学生増につながり効果的であった。</li> <li>・電子制御工学科では <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)外部の教育力の活用をした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師として外部の教育力の活用をした。</li> <li>・平成26年度に非常勤講師に担当してもらう科目と内容の検討、および人選を行った。</li> </ul> </li> <li>(2)企業の技術者／研究者を講師にした特別講演会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の人選を行い、講演会を実施した。(9月実施済)</li> <li>・「iPad/iPhone向けアプリケーション開発入門」の講習会を実施した。学生向けの講習会と同時に公開講座として一般市民向けに開催した。(9月実施済)</li> </ul> </li> <li>・物質工学科では4年生以上の科目で企業人材による授業を実施した。</li> <li>・後期から企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った。(11月～1月実施済)</li> <li>・建築学科では非常勤講師(本校OBも多く含む)との打合せを開催した。校長参加のもとで、授業評価アンケートに関するFDも実施した。(6月実施済)</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。</li> <li>・地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。</li> <li>・電気情報工学科では、今後弱電やソフトウェア系の講演の実施を検討する。</li> </ul>			<p>地域共同テクノセンター</p> <p>各学科</p>
⑧ 理工系大学との間の連携を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学の集中講義の聴講制度を調査し、本校の学生への単位認定の可能性等について検討する。</li> <li>・技術科学大学との研究室交流を継続する。講演会や教員懇談会を広い学年を対象に催し、交流の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 技科大学主催の高専・技科大教員研究会等へ参加する。</li> <li>(2) 高専－長岡技科大連携教育研究助成、豊橋技科大の高専連携教育研究プロジェクト等への応募を検討する。</li> </ul> </li> <li>・他大学との共同研究を継続して実施する。</li> <li>・第5学年で開講している機械動力学に大学から教員を招き講義を行う。</li> <li>・鳥取環境大、鳥取短大を含む鳥取県建築交流会に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学生による大学の集中講義の聴講(単位認定)が可能なケースについて調査し、理工系大学との連携の可能性について検討した。</li> <li>・本校で開講していない第二外国語(本科4年)について、放送大学の単位を本校の単位として認定することにした。(9月実施済)</li> <li>・第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。理工系大学との共同研究を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊橋技大(2月実施)、長岡技大(2月実施)、鳥根大学(1月実施)の3大学について研究室交流の実施した。連携研究および大学院編入等につながった。</li> <li>・豊橋技科大との共同研究を実施した(7月実施済)。</li> </ul> </li> <li>・医工連携の可能性について検討し、鳥取大学医学部生命科学科の研究室見学を専攻科生が随時行った。(その都度実施済)</li> <li>・他大学との共同研究を継続するとともに、連携について検討した。</li> <li>・鳥根大学総合理工学部との共同研究を継続中(その都度実施中)</li> <li>・鳥取大学医学部生命科学科との共同研究の実施(8月から実施中)</li> <li>・広島大学と干潟再生技術の共同研究を実施した。実際に干潟シュミレータを稼働し、調査を行った(8月実施済)。解析データは学会発表を行う予定である(11月実施済)。</li> <li>・広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した。(9月実施済)。</li> <li>・鳥取環境大、鳥取短大を含む鳥取県建築交流会を主催した。教育研究活動について話題提供を行うと共に近年の県内就職状況について意見交換を行った。(6月実施済)</li> <li>・両技術科学大学等と共同研究を行っている。長岡技術科学大学建設環境系准教授による平成25年度 高専－長岡技科大共同研究が7月に採択された。両技術科学大学と高専の建設系教員による研究発表会に参加し研究発表を行った。(8月実施済)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き理工系大学との間で連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立高等専門学校機構本部と運動し、両技術科学大学との連携を推進し研究・教育の分野で交流を図る。</li> <li>・本校教員と鳥取大学医学部教員の共同研究を推進する。</li> <li>・鳥取大学医学部との医工連携を推進するために、専攻科からの同医学部大学院への進学を検討する。</li> </ul>			<p>教務部</p> <p>専攻科</p> <p>各学科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
<p>⑨ e-ラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>・クラウド上で学習できるe-ラーニングコンテンツ(学習到達度試験対策用など)の活用を促進する。 ・材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。 ・スマートフォンから利用可能なコンテンツ配信サーバを構築し、定常的な利用が図れる環境を構築する。 ・電子回路CAD・シミュレーションソフトおよびMATLAB/Simulinkを活用した教育を実施する。 ・専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用する。 ・「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施する。 ・「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用する科目を増やすことを検討する。 ・e-ラーニング教材の学生への周知を行い、活用を促すとともに、シミュレーションソフト等を授業に活用する。 ・各科目のe-ラーニングの内容(演習問題など)を充実させる。</p>	<p>・e-ラーニング・システムの再構築を行った。 ・ポスターなどを利用してe-ラーニング教材を学生に周知し、利用を促した。(11月実施済) ・機械工学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。 ・電気情報工学科では、スマートフォンアプリケーションのプログラムは継続して開発中。また、校内LAN上に共有サーバは、校内HP整備と連動させるためH26年度以降に実施予定。 ・電子制御工学科では、 ・(1)電子回路CAD・シミュレーションソフトおよびMATLAB/Simulinkを活用した教育を実施した。 ・専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用している(H25年4月より実施、専攻科実験は前期・後期に実施済) (2)「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施した。 ・「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用する科目を増やした。 ・5年情報伝送、1年電子制御基礎に加え、2年デジタル回路で活用した。 ・物質工学科では、シミュレーションソフト等を授業に活用した。 ・3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行っている。(その都度実施済) ・「情報工学II」においてe-ラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。 ・物質工学実験において分子モデリングソフトWinmostarを用い、分子長の計算などを行った。(5月実施済) ・建築学科では耐震関連のe-ラーニング教材を専用ホームページに掲載し、学生への周知を行い、学生の構造関連科目への自学自習の資料として活用した。(1月実施済) ・教養教育科では、後期に、ポスター掲示などで(クラウド上で学習できるe-ラーニングコンテンツも含めた)e-ラーニング教材を学生に周知し、利用を促した。 ・後期に、e-ラーニングの内容(演習問題など)を充実させた。 ・ネットワークの円滑な運用を行っている。</p>	<p>・プログラムはtwitter機能の実装までしか達成できなかった。</p>	<p>・ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。 ・スマートフォンアプリケーションのプログラムは継続して開発を進める。</p>			<p>教務部 専攻科 図書館 情報教育センター 各学科</p>
<p>① メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。</p>	<p>・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 ・教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を実施する。 ・特別支援教育士をめざす教員の支援をする。 ・特別支援教育を必要とする学生について教員会議等で周知を図り、支援を呼びかける。 ・顕著な発達障がい等のある学生を支援するために移行支援会議を開催する。</p>	<p>・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図った。 ・教職員を対象とする研修会「ストレスに勝つ 元氣職場づくり」を開催した。(9月実施済) ・特別支援教育士をめざして講習を受講中の教員(平成24年度から5名が受講開始)に対し、受講に必要な経費を学生相談室の経費から支出し、支援した。 ・4月の教員会議で特別支援の必要な学生に対して必要な心構えなどを説明し、理解を求めた。 ・移行支援会議を行い、4年生に進級する1名の学生に関わる担任、科目担当者、学生相談室員、カウンセラーの間で情報交換・意見交換を行った。(3月実施済) ・全学生に対して、「こころからの健康調査」を実施し、ストレスの多い学生の把握と対策を進めた。(6月実施済)</p>	<p>・保護者と学生相談室の連携をスムーズにする必要がある。</p>	<p>・教員会議で教員に保護者への周知を依頼する。入学式後の保護者に対する学生相談室の紹介で協力を依頼する。広報誌(『彦名通信』)で協力について記す。 ・特別支援の必要な新入生の保護者と面談する。</p>			<p>教務部 学生相談室</p>
<p>② 図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。</p>	<p>・図書館情報センターの耐震を含めた改修を行う。 ・学生及び教職員の憩いと交流の場として、また学生が自発的に学習に取り組める場としてのコミュニティプラザや閲覧室を実現する。 ・寄宿舎の基幹設備の老朽化状況を調査し、整備改革を立案する。 ・寄宿舎の生活支援整備等の整備計画に基づく営繕工事の要求を計画的に行う。 ・緊急事項として、寄宿舎における女子寮生の増加に対する対応策を検討する。</p>	<p>・施設整備費補助金による図書館情報センターの耐震を含めた改修を行い、平成26年度3月に竣工した。 ・上記改修に合わせ、学生及び教職員の憩いと交流の場として、また学生が自発的に学習に取り組める場としての交流プラザや新しい閲覧室を設置した。 ・女子寮生の増加および女子留学生の受け入れに伴う生活支援整備について、平成25年度の整備計画を策定し、自助努力(学内予算)により整備を行った。(3月実施済) ・生活支援整備のための営繕工事等について以下の予算要求を行った。(3月実施済) &lt;設備整備マスタープラン&gt; -学生寮浴室ボイラーのエコキュート化 -学寮居室2重サッシ化 -学寮不法侵入防止用防犯カメラシステム -寄宿舎管理棟事務室改修 -新南寮居室壁面塗り替え &lt;施設費交付金(営繕事業)&gt; -寄宿舎外屋上遮熱塗装改修 -寄宿舎洗濯場改修 ・来年度からの東寮(男子寮)の女子寮転用に向けて以下の整備を行った。(3月実施済) -南寮の留学生用シャワー室設置および補食室の整備 -屋外へのムスリム用補食室設置 -東寮周囲へのフェンスおよび赤外線センサの設置 -あさぎり寮から東寮への渡り廊下の設置 -東寮トイレの改修 -東寮内の清掃および調度類の更新等</p>	<p>・図書館情報センターの効果的運営と周辺教育環境の整備を行う。 ・女子寮生の増加および女子留学生の受け入れに伴う生活支援整備を行う。</p>	<p>・アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。 ・平成26年度入寮者数の確定を受けて、今後の入寮者数の予測をもとに、平成26年度以降の中長期的な整備計画を策定し、必要に応じて予算要求を行うとともに、平成26年度の整備計画を策定して整備を実施する。</p>			<p>運営会議 寮務部 図書館 情報教育センター 事務部</p>



米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
	③ 各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。	・電子掲示板での掲示・放送を通して情報を多方面から提供する。	・奨学金、授業料免除等の学生支援情報を電子黒板、掲示、放送で提供した。(年間)		・引き続き日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行う。			学生部
	④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。	・各種求人情報を各学科進路担当者が作成し、学生に公開する。 ・本校主催の企業説明会(H26.1/24)、大学説明会(4/25及びH26.1/24)及び保護者説明会等を実施する。 ・本年度夏季に、地元企業を中心としたオープンファクトリーを実施する。	・求人情報を各学科進路担当者が作成し、それを学生に公開することで、学生の就職活動に活用した。(その都度実施中) ・1月に企業説明会を行い、就職活動を支援した。4月に大学院説明会を実施し、専攻科生の進学を支援した。1月と3月に大学説明会を実施し、本科生の進学を支援した。 ・9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立てた。(その都度実施済)		・求人データベースの充実を図る。 ・引き続き企業見学会、大学・大学院説明会や進路セミナーを開催する。			キャリア支援室
	① 施設・設備の点検・評価を行い施設マネジメントの充実を図る。	・各室の稼働状況を確認して部屋の有効利用等を検討する。 ・平成24年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽化等注意を要すると診断した箇所について、対策を推進する。 ・平成24年度に作成した設備整備マスタープランを見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。 ・キャンパスマスタープランに基づく長期的な視点に立った計画的な施設管理を行う。	・講義室、教室等の稼働状況の調査(5月実施済)では校内各室の稼働率は高く、さらに居室の集中化など継続的に有効利用方策を検討する(継続中) ・平成24年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、改修工事を行った。(10月実施済) ・設備整備マスタープランに基づいた予算要求を行い、平成24年度補正予算等を財源としてマシニングセンタ等の教育研究設備の整備を実施した。(3月実施済) ・キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備として、図書館情報センターの耐震改修を実施し、基幹設備について概算要求を行った。(5月実施済)	・学生に対して行った授業アンケートの結果が反映されていない。	・各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 ・設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。  ・授業アンケートの結果を受けての各部門からの要望を集約し、それを踏まえて点検パトロールを実施する。			運営会議 インフラ整備委員会 事務部
(6) 教育環境の整備・活用	② 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。	・学生アンケートを基に老朽化した実験器具を更新する。 ・建築学科の構造実験室に新たに導入された設備の活用を図る。 ・古くなっている機材の見直し、整理を行う。 ・災害に強いキャンパス整備のため、また設備の耐震性向上のため、給水管・屋外消火栓設備等の改修計画を立案し、概算要求を行う。 ・緊急避難経路等の点検を行い、学生教職員へ緊急時の行動について周知する。 ・平成24年度に作成した設備整備マスタープランを見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。 ・整備計画に基づく、営繕事業の要求を行う。 ・高効率照明、空調機の導入を積極的に行いCO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水洗の導入を推進する。 ・教職員に省エネルギー意識の啓蒙を図り、さらなる節電に努める。	・一般化学実験室と有機化学実験室の老朽化した実験器具を更新した。(3月実施済) ・昨年度までに構造実験室へ導入した設備は、教育研究・オープンキャンパス・公開講座、企業からの調査研究(火災被害度評価9月実施済)に活用した。 ・単振動の振動台を整理・廃棄し、実際の地震波が再現できる3次元振動台に更新した。(3月更新済) ・乾燥機がセンサー不良により断続的に停止するため、更新を行った。(3月実施済) ・既存の恒温室に加湿装置を加え、恒温恒湿室へ改良した。(2月実施済) ・10月から11月にかけて既設機材の撤去工事を実施した。 ・災害に強いキャンパス整備のため、また設備の耐震性向上のため、給水管・屋外消火栓設備等の改修計画を立案し、概算要求を行った。(6月実施済) ・緊急避難経路の点検を実施し、廊下階段等の避難スペースを確保するとともに、防災避難訓練を通して緊急時の対応を周知した(5月実施済)。 ・H24年度に作成した施設整備マスタープランを見直しを図り、マシニングセンタ等の教育研究設備の整備を行った(3月までに実施済)。 ・整備計画に基づく、第一体育館内部改装等の営繕事業の要求を行った(6月実施済)。 ・図書館情報センター改修工事において、高効率照明、空調機の導入を積極的に行いCO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水洗を採用した(8月実施済)。 ・図書館情報センターの周辺区域を中心に、学生に快適な教育環境の整備を行った。(交流プラザ、広場の設置)(3月実施済) ・節電に関し、講義室等では貼り紙等による啓蒙を行っているが今後も引き続きパトロールによる各室への声かけを実施していく。		・安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。			各学科 事務部
	③ 安全管理のための機構等主催の講習会に積極的に参加させる。	・専門学科分野ごとの安全管理講習会に参加する。	・AEDの講習会を実施し、知識技術の習得を図った。(1月実施済) ・職場のメンタルヘルスマシナリー等の専門分野の講習会に参加した。 ・「心の健康づくり計画」に基づき下記の取組を実施した。 1. 教職員に対してメンタルヘルスマシナリー講習会を実施した。 2. 管理監督者により教職員に対し随時意見聴取を行った。 3. 心の健康づくり活動の評価を実施した。		・安全管理のための講習会に積極的に参加し、安全意識を高める。			安全衛生委員会
	① 全国規模のシーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得に向けた取り組みを実施する。	・「第11回全国高専テクノフォーラム」や各種の中国地区高専間連携事業へ参加し、研究成果・技術シーズの発表とパネル展示やシーズ展示を行う。 ・産学連携コーディネータ等を活用し、科研費申請書のピアレビューなど、各種補助金申請のサポート業務を行う。	・「第11回全国高専テクノフォーラム」において、地元企業との共同研究の成果事例を発表した。(8月実施済) ・H25年度科研費の申請に対し、審査結果の調査にもとづいて申請書のポストレビューを実施し、改善策を提案した。(8・9月実施済) ・H26年度科研費の申請に対し、産学連携コーディネータ等による申請書のプレレビューを4件実施した。(10月実施済)	・科研費の申請率と採択率の向上のための取り組みを継続・推進する。  ・他高専の状況や取り組みを調査し、改善のヒントを探る。			地域共同テクノセンター	

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署	
2・研究に関する事項	<p>② 共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、これらの成果を公表する。</p> <p>・テクノセンター特任のコーディネータ採用により、米子高専振興協力会との一層の連携強化と、シーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大を図る。 ・自治体等の「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図る。 ・中国地区の大学・高専によるコンソーシアム等を利用した情報発信や、全国規模の展示会への出展をサポートすることにより、シーズ・ニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図る。</p>	<p>・コーディネータを4名採用し、主担当を設定して効率的・効果的な業務分担を行った。そして、振興協力会を中心に企業ニーズの掘り起こしを行い、教員シーズとの結びつけを行った。(その都度済) ・境港市との包括連携協力協定を締結した。(5月実施済) ・JST大学見本市にて教員シーズを出展した。(8月実施済) その後コーディネータによるフォローアップを実施した。</p>		<p>・産学連携コーディネータを配置し、企業ニーズの掘り起こしや教員シーズとのマッチングを図る。</p>			地域共同テクノセンター	
	<p>③ 広域連携の推進と研究成果を集約する体制を構築する。</p> <p>・研究成果の知的財産化を推進するため、知的財産セミナー(特許検索・知的財産権に関する事項)を開催する。 ・商品化やロイヤリティ収入を覗んだ企業との共同出願特許の実績作りおよび権利化を推進する。 ・各種のシーズ・ニーズのマッチングシステムを活用する。また、中国地区経産局や鳥取県産業振興機構(発明協会)コーディネータ等との連携により、知財シーズの掘り起こしを行う。</p>	<p>・知的財産に関する教職員向けFD研修会を実施した。(3月実施済) ・発明届の提出が4件あった。うち2件はロイヤリティ収入を見込んだ企業との共同出願である。(9～3月) ・機構に提出していた発明届のうち、企業との共同出願2件と単独出願1件が登録査定となった。 ・近隣の商工会議所が主催するビジネスマッチング事業にシーズ登録し、1件の商談があった。(11月実施済) ・企業ビジョンに関する米子高専振興協力会特別講演会の講師について中国経産局より推薦を受け、会員企業および教員の先進的技術開発に向けた知財シーズの動機づけと掘り起こしを行った。(11月実施済)</p>		<p>・産学連携コーディネータによる知財化活動のノウハウを収集する。</p>			地域共同テクノセンター	
	<p>① 地域共同テクノセンターなどの施設や設備の拡充計画を策定する。</p> <p>・学内のインキュベーションルーム、リエゾン室などの施設や設備の活用を推進し、稼働率の向上を図る。 ・鳥取オフィスの具体的な活用法を検討し、有効利用を図る。 ・スタッフ間の情報共有の効率化を図ると同時に、企業情報等の蓄積データを活用するためのシステムを構築する。</p>	<p>・計測設備等は使用実績がある教員へ保管を兼ねて貸し出し、稼働率の向上を図った。(8月実施済)(図書館改修に対応するため、フロアを閲覧室・端末室等として提供した。) ・鳥取オフィスにてコーディネータによる技術相談を15件実施した。(その都度実施済) ・グループウェアを構築し、カレンダー・閲覧板・企業データベース・業務報告データベースなどの機能により、情報共有とデータの蓄積が可能な環境を整備した。(4月実施済)</p>	<p>・地域貢献としての公開講座・出前講座は成熟期に入っており、将来に向けた戦略的な事業展開を考える必要がある。</p>				地域共同テクノセンター	
	<p>② 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などを効果的に広報する。</p> <p>・従来の「産学連携のススメ」を改訂した産学官連携案内パンフレットを発行し、米子高専の産学官連携の取り組みと制度を広く紹介する。 ・「米子高専技術シーズ集2013」を発行し、教員個々の「研究分野・相談分野」を紹介するとともに、教員研究分野カテゴリー集を掲載して分野別連携組織の活用を推進する。 ・「米子高専振興協力会総会/講演会」や「とっとり産業フェスティバル」等において、成功事例発表やそのノウハウについての講演を実施し、普遍化を図る。 ・ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介し、研究成果の情報発信と産学官連携・地域貢献活動に関する広報活動を推進する。</p>	<p>・改訂した産学官連携案内パンフレットを発行し、振興協力会会員企業をはじめ関係各署に配布して米子高専の産学官連携の取り組みと制度を広く紹介した。(6月実施済) ・「米子高専技術シーズ集2013」を発行し、教員個々の「研究分野・相談分野」を紹介するとともに、教員研究分野カテゴリー集を掲載して分野別連携組織の活用を推進した。(5月実施済) ・米子高専振興協力会総会(7月)、とっとり産業フェスティバル(9月)、および大阪合同ビジネス交流会(3月)においてパネル&amp;動展示や事例発表を行い、教育研究活動の発信を行った。(実施済) ・各種メディアを通じて研究成果、産学官連携・地域貢献活動の広報を行った。(その都度実施済) ・「第11回全国高専テクノフォーラム」において、地元企業との共同研究の成果事例を発表した(8月実施済) ・まちなか活用に関する活動が、新聞各社に取り上げられた。(10月実施済)</p>					地域共同テクノセンター 広報室	
	<p>③ 小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、取組事例をまとめる。</p> <p>・中学生をターゲットに「エンジョイ科学館」を開催し、学校PRを兼ねて科学技術への啓蒙を図る。 ・小・中学生や社会人向けに、幅広いテーマの「公開講座」を開講し、地域貢献活動を推進する。 ・主に小学生およびPTA向けに、各科の専門性を生かした「出前講座」を開講し、地域貢献活動を推進する。</p>	<p>・中学生向けの「エンジョイ科学館」を開催し、過去最高となる約110名の参加があり、満足度98%であった。(8月実施済) ・出前講座を11テーマ設定して77回実施し、満足度96%であった。(その都度実施済) ・公開講座を14件開講し、満足度97%であった。(その都度実施済)。</p>						地域共同テクノセンター 各学科
	<p>④ 満足度調査において公開講座の参加者から評価されるように、内容を充実する。</p> <p>・公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施し、満足度と要望・ニーズ等を調査し、講座内容の改善を図る。 ・米子市文化財団などの外部団体との連携による「ジョイント講座」等を実施する。</p>	<p>・公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施したところ、平均96%の満足度が得られた。(通年実績) 実施状況は教員会議(4月・10月)で報告し、内容の改善に役立てた。 ・米子市文化財団、わかとり科学技術育成会、米子青年会議所等と連携した科学技術講座を11件実施した。(その都度実施済) ・地域連携の講座に補助として学生を派遣し、連携講座を実施した。(10月、11月実施)</p>						地域共同テクノセンター 各学科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
<p>⑤ 卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を図る。</p>	<p>・米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)ITポータル・サイトの企画・設計及び運用を開始する(2013年11月)。 ・米子高専同窓会の見直し(組織・会則の改定、中部・関西支部の設立)(2013年8月～12月)及び米子高専首都圏同窓会との連携強化を図る。 ・米子高専留学生OBネットワークを企画・検討する。 ・鳥取県、(公財)鳥取県産業振興機構、(地独)鳥取県産業技術センター、米子高専振興協力会、米子高専後援会との連絡・調整を図る。 ・卒業生の所在等について、往復葉書・電話による情報収集を行い、同窓会名簿を発行する。 ・卒業生・修了生に対するアンケートを利用してその動向を調べ、結果から学科計画の改善方法を検討する。 ・研究室単位での卒業・修了生の動向調査結果を学科としてまとめる。 (1)各研究室の過去の卒業・修了生のリストおよび最新の同窓会名簿を基に動向調査を実施する。 (2)OB・OGを招聘しての講演会を実施する。 ・校外向けホームページ上にある建築学科の内容の充実を図り、建築会(建築学科OB会)との連携を行いやすいようにする。</p>	<p>・米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の構築のため (1)Ynct-netポータル・サイト(Ver. 1)の運用を開始した(8月)。 (2)米子高専同窓会の規則(会則など)改定・役員改選を行い(8月)、関西支部(10月)、中部支部(11月)を設立した。また、米子高専首都圏同窓会総会(6月)に参加し連携強化を図った。 (3)米子高専留学生OB(首都圏在住)との第2回懇談会(6月)を実施した。 (4)-1卒業生へのUターン等地元就職支援として、Ynct-netポータルによる米子高専振興協力会求人情報提供サービスを開始した。 (4)-2米子高専後援会役員OB・OGを中心に、「専友会」(米子高専友の会)が発足した。(9月) (5)米子高専同窓会と米子高専との連携による卒業生の住所確認を開始した。(11月) ・機械工学科では、卒業生の所在等について、往復葉書・電話による情報収集を行い、同窓会名簿の発行を準備している。 ・電気情報工学科では、卒業生アンケートについてSNSの利用を図ることを検討したが、今後は同窓会と連携し、学科独自のネットワークづくり(H26年度に立ち上げ)を行ったのちに再度検討することとなった。 電子制御工学科では、 (1)研究室単位での卒業・修了生の動向調査結果を学科としてまとめた。各研究室の過去の卒業生・修了生のリストをもとに動向調査を実施した。(2～3月実施済) (2)OB・OGを招聘しての講演会を実施した。 ・建築学科では (1)ホームページの改修(トップページ、FaceBookとのリンク、教員の追加・校務分掌更新など)を実施した。(5月実施済) (2)ホームページ(FaceBook)によりOBへの情報提供を行った(5月実施済)掲載するなどして建築会との連携を図った。 (3)就職内定先情報の改修を実施した。(10月実施済)</p>	<p>・電気情報工学科では、卒業生アンケートについてSNSの利用を図ることを検討したが、今年度は実施できなかった。</p>	<p>・電気情報工学科では、同窓会と連携し、学科独自のネットワークを立ち上げる。同窓生と連携を図り、教育改善に生かす。</p>			<p>国際交流 各学科</p>
<p>⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生の国際交流体験や教員の国際交流を促進するための施策を検討する。 外国の大学等の教育研究機関との国際交流事業の協定締結を推進する。</p>	<p>・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、以下のことを実施する。 (1)国際交流協定に基づく交流プログラムの企画・試行 (2)地元自治体が行う国際交流プログラムへの参画 (3)大学・高専連携による国際交流プログラムへの参画 (4)JICEなど国際協力・連携組織が行う国際交流プログラムへの参画 (5)海外の大学等との協定締結 ・英語、ドイツ語、中国語、韓国語の科目を選択した学生の授業アンケートの検討を始める。 ・第2外国語としてのドイツ語の扱いについて検討する。 ・本科学士の海外研修旅行実施について検討する。 ・鳥取県・バーモント州青少年交流事業の一環として訪日する米国高校生を受け入れ、専攻科生とともに学校交流プログラムを実施する(4月)。 ・海外インターンシップについて、その実現可能性の検討を行う。</p>	<p>・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、 (1)-1鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月) (1)-2JASSO海外留学支援制度(短期派遣・短期受入れ)申請を行ったが不採択であった。(11月) (1)-3交流協定に基づき教員2名、職員2名の派遣を実施した。津山高専から2名、舞鶴高専から2名の教職員を随行した。(3月) (2)-1鳥取県との連携で、鳥取県・バーモント州(米国)青少年交流事業に伴う米国高校生との学校交流を実施した。(4月) (2)-2境港市との連携で、ウラジオストク国際青少年フェスティバル(ウラジオストク市)に専攻科生を派遣した。(6月) (3)-1鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月) (3)-2留学生交流シンポジウム(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に留学生・日本人学生を派遣した。(10月) (3)-3合同研究発表会 in Manila(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に学生を派遣した。(11月) (3)-4高専生のための英語キャンプ2013 in Singaporeに学生を派遣した。(8月) (3)-5ISTS2013(国立高専機構)に専攻科生を派遣した。(11月) (4)アジアサイエンスキャンプ2013(JST)に女子留学生が参加し、最高表彰を受賞した。(8月) (5)マレーシア工科大学へ在外研究員を派遣し、主に東南アジアの大学との協定締結を模索する。(3月) ・本科4年に一斉開講しているドイツ語(週当たり3時間)は、平成26年度入学生から選択科目として週当たり2時間とし、中国語、韓国語などを含めた選択科目の一つとした。残りの1時間分は特色ある英語の選択授業として5科目を開講することとし、平成26年度入学生からこのカリキュラムを適用することにした。(9月実施済) ・国際交流講演として、ロシア人通訳による「ロシアと私の国アバジヤ」と題した講演を本科4年生に対し実施した。講演の中では簡単なロシア語の基礎についても学習した。(2月実施済) ・海外研修旅行は、全員参加型とせずに任意参加として、国際交流担当を中心に検討中である。そのために教務担当教員を韓国に派遣した。(3月実施済) ・海外インターンシップの有効性について検討し、実現に向けて検討を継続する。(10月実施済)</p> <p>※平成25年度評議員会での指摘事項をふまえ、TOEICに関する活動内容の記載をより詳細なものにしている。</p>	<p>・国際性の涵養教育を推進する。 ・引き続き国際交流の促進を図る。</p>	<p>・在校生の海外発表や海外語学研修を奨励する。 ・米子高専後援会(保護者会)などとの連携や創立50周年記念事業の一環として国際交流基金の創設・運用を図る。 ・専攻科生の海外研修や海外インターンシップについて周知を図る。</p>			<p>国際交流 教務部 専攻科 各学科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑦ 国費留学生等の受入増に努めるとともに、留学生を取り巻く環境の整備充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生との情報交換会を年2回実施する。</li> <li>・留学生控室の整備計画に基づき、整備・充実を図る。</li> <li>・寄宿舎の整備計画に基づく営繕工事の要求を計画的に行う。</li> <li>・留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部と留学生の小規模交流会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生との情報交換会を実施した。(5月、2月実施済)</li> <li>・留学生OB講演会・留学生交流会を実施し、留学生OB講演会では「高専留学生の大学への進学とその後の進路について」と題し、本校留学生への進学に向けた勉強や生活全般についてアドバイスをもらった。交流会では、留学生・チューター日本人学生・関係教職員が相互の親睦を深め、留学生が日頃抱えている留生活全般についての意見を聞き、アドバイスや情報交換を行った。(H26年2月実施)</li> <li>・上記の詳細は、校外向けWebページ「新着・お知らせ情報」のH26.3.6付け記事として掲載している。</li> <li>・留学生控室のPCを更新し、インターネット環境を整備した。(3月実施済)</li> <li>・寄宿舎の無線LANのアクセスポイントを増やす等インターネット環境を整備した。(3月実施済)</li> <li>・寄宿舎における要求は、中長期計画をベースに予算配分の検討が行われることから急務とされる老朽化した基幹設備及び女子入寮者増加に対応した整備計画は校内予算により整備した。(3月実施済)</li> <li>・留学生の修学上及び生活面での要望等意見をくみあげるため、指導教員、学生チューターを交えた交流会を実施した。(4月実施済)</li> <li>・3学年の学生チューターを1名から2名に増員した。(4月実施済)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女子留学生の増加に伴う生活支援整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</li> <li>・増加した女子留学生用の補食室、シャワー室、談話室等の共用スペースを確保するとともに、男女留学生増加に対する平成26年度以降の中長期的な整備計画を策定し、必要に応じて予算要求を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流</li> <li>教務部</li> <li>寮務部</li> <li>事務部</li> </ul>
⑧ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生OB講師による講演会を年1回実施する。</li> <li>・外国人留学生研修旅行を年一回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生OBを講師にした講演会を、留学生との情報交換会と同日に実施した。(2月実施済)</li> <li>・外国人留学生研修旅行を実施し、6名の留学生が沖縄を訪れ、日本の歴史・文化・社会について学んだ。(3月実施済)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き留学生交流プログラムに参加させる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部</li> </ul>
⑨ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度実施に向けて、米子高専50周年記念事業の準備を進める。(記念誌編纂、募金活動、ロゴマーク募集、記念式典・講演会の企画、50周年記念プラザの設立、卒業生ネットワークの構築、国際交流基金の創設)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度実施に向けて、米子高専50周年記念事業の準備を進めた。(記念誌編纂、募金活動、ロゴマーク募集、記念式典・講演会の企画、50周年記念プラザの設立、卒業生ネットワークの構築、国際交流基金の創設)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立50周年記念事業を実施する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流</li> </ul>
① 教職員の適正な服務管理・健康管理を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AED等の学内講習会を開催し、教職員の知識・技術の習得を図る。</li> <li>・「心の健康づくり計画」に基づく年次目標達成のための取組みとして以下を実施する。 (1)教職員に対する教育研修の実施 (2)管理監督者による教職員からの意見聴取(ストレス要因の把握)を随時実施 (3)心の健康づくり活動の評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDの講習会を実施し、知識技術の習得を図った。(1月実施済)</li> <li>・職場のメンタルヘルスセミナー等の専門分野の講習会に参加した。</li> <li>・「心の健康づくり計画」に基づき下記の取組を実施した。 1. 教職員に対してメンタルヘルス講習会を実施した。 2. 管理監督者により教職員に対し随時意見聴取を行った。 3. 心の健康づくり活動の評価を実施した。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生委員会</li> </ul>
② 各種危機管理体制の点検・整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速かつ確かな危機管理に対応するため、危機管理体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波を想定した避難訓練を実施した。</li> <li>・鳥根原発事故の際の避難場所として鳥取環境大学を指定するための協定を結ぶべく、鳥取県を交えた三者間で準備を進めている。</li> <li>・毒物・劇物の容器に対する表示をより分かりやすくするためシール貼付等の対策を行った。(5月～実施)</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理委員会</li> <li>事務部</li> </ul>
③ 法人としてのスケールメリットを生かし、事務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査、監事監査、高専相互監査等の監査結果について、検討を行い、改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行った。</li> <li>・50万円以上の工事契約案件において、複数の者から見積書を徴取するよう改善を図った。(4月～実施)</li> <li>・工事総合評価審査委員会における点数化のプロセスの見直しを行い、改善を図った。(6月実施済)</li> <li>・平成24年度決算検査報告により指摘された事項のうち債権債務確認などを本校における決算業務の一環として独自に対応することとした。(3月検討済・4月実施予定)</li> <li>・情報セキュリティインシデント通報窓口の整備、米子工業高等専門学校情報セキュリティインシデント対応手順を整備し校内HPへ公開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して実施する。</li> <li>・今後、より利用者が活用しやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討し、対応できるものから実施する。</li> <li>・各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施する。</li> <li>・今後も継続して実施する。</li> <li>・利用者向けの手順書を整備する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報管理室</li> <li>事務部</li> </ul>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
4・ 管理 運営 に関 する 事項	④ 事務職員や技術職員の能力の向上のため計画的に研修に参加させる。 ・高専機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに、企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させる。	・事務職員や技術職員の能力の向上のため計画的に研修に参加させた。(通年実施済) ・機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに、企業等が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させた。 機構主催研修・講習会参加 平成25年度西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会(機械系)(8月) 高専向けShibboleth講習会(10月) 平成25年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会(12月) 大学法人・高専等主催研修・講習会参加 平成25年度中国地区国立高等専門学校技術職員研修(8月) 平成25年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(8月) 平成25年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(機械、生物・生命分野)(8月) 第25回情報処理センター等担当者技術研究会(8月) 平成25年度鳥取大学機器・分析技術研究会(9月) 平成25年度実験・実習技術研究会inイーハトーブいわて(3月) 企業等実施研修・講習会参加 MF-Tokyo2013 プレス・板金・フォーミング展テクニカルセミナー(7月) 能力開発セミナー「切りくず処理の問題解決 旋削加工編」(9月) (株)インソース公開講座「評価者研修」(11月) オムロン(株)「制御技術セミナー【実践コース】」(1月) 日経アーキテクチャセミナー(3月)		・機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させ、企業インターンシップについても検討する。			事務部 技術教育支援センター
	⑤ 事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。	・中国地区の高専間での技術職員の人事交流について、技術長レベルで検討を始める。 ・全国高専での人事交流について情報収集した。また、中国地区の高専間での人事交流については、25年度より技術長で検討を始めることになった。		・事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。			事務部 技術教育支援センター
	⑥ 「第2次情報セキュリティ基本計画」等の政府方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進する。	・教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を実施し、情報セキュリティの意識向上を図った。(9月実施済) ・情報セキュリティ運営組織を刷新し、後期より新たに情報教育センター(教員による構成)と情報管理室(事務部にて構成)を設置し、学校としての情報セキュリティマネジメント体制(ISMS)を強化した(10月実施)。 ・外部有識者を招いて情報セキュリティに関する自前監査を実施し(12月実施)、本校ISMSIに対する対応状況と課題の把握、および情報セキュリティインシデント対応マニュアルなどの作成を行った(2月済み)。	・今後も継続して実施する。 ・情報セキュリティに係る不具合やインシデント対応の際、作業記録を残していない。 ・今後も継続して監査を実施する。	・教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を年1回行う。 ・学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を講演会などを通じて実施する。 ・情報セキュリティ運営体制に関し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施する。 ・各実施手順書を順次作成する。 ・今後も継続して実施する。 ・情報セキュリティに係る不具合やインシデント対応の際には、作業記録をつける。 ・今後も継続して監査を実施する。			情報セキュリティ委員会 情報教育センター 情報管理室
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ・毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を前提として、当初予算配分を行う。 ・学校の配分方針等に基づき、中期計画の達成に必要な資源配分を戦略的かつ計画的に行うための予算編成・配分方針を策定し、重点的に予算配分を行う。 ・中期計画の達成に必要な資源配分を、戦略的かつ計画的に行う。 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。 ・随意契約見直し計画の取組状況を集約する。 ・財務諸表等の精度を向上させ、会計監査人による全国高専のチェックを踏まえ本校にも反映し、高専間相互監査等のチェック体制を推進する。	・一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を前提として、当初予算配分を行う。 ・学校の配分方針等に基づき、中期計画の達成に必要な資源配分を戦略的かつ計画的に行うための予算編成・配分方針を策定し、重点的に予算配分を行う。 ・文書保管ファイル等事務用品の再利用により、コスト意識の浸透及び経費削減を図る。 ・政府調達等の官報公告をまとめて公告で行うことにより経費の削減を図る。 ・随意契約見直し計画に基づき、原則、一般競争契約に付するものとし、競争性、透明性の確保を図る。	・当初における経費削減は、新規事業も多数あり、結果として固定的維持費及び教育等施設経費のみ一般管理費(人件費相当額を除く。)は対前年比3%、教育研究経費は対前年比1%の削減を前提とした予算配分とした。(7月実施済) ・中期計画の達成に必要な資源配分を教育研究活性化経費などの戦略的かつ計画的に行うための予算編成・配分方針を策定し、重点的に予算配分を行った。(7月実施済) ・文書保管ファイルは、そのまま再利用を行い、日付スタンプにおいて、ゴム部分のみ交換を行い、コスト削減に努めた。(7~12月実施済) ・可能な限り政府調達の官報公告においては、まとめ公告を行い、経費の削減を図った。(5月実施済) ・随意契約見直し計画に基づき、真にやむを得ないものを除き、全て一般競争等による契約にて計画した。(3月実施済)		・前期を踏襲した戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性の原理を活用した執行により生み出された資源の有効利用に努める。			運営会議 予算委員会 事務部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 ・共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	・産学官連携コーディネータを鳥取県西部・東部の各拠点に配置することにより、地域の企業とのシーズ・ニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図り、共同研究、受託研究、奨学寄付金などの外部資金獲得に積極的に取り組む。また、コーディネータ等による補助金申請に係る各種サポート業務を行い、獲得ノウハウなどの普遍化を図る。	・コーディネータを4名採用し、それぞれ県西部・県東部・全国・広報の主担当として配置した。外部資金の獲得状況は概ね例年と同程度に推移した他、経産省の戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)、JSTのA-STEPに係わる案件の獲得があった。(その都度実施済) ・科研費獲得に関するFD研修会を実施し、講師の著書を参考書として各部署に配布した。(8月実施済) また、コーディネータによる申請書の書き方アドバイスを適宜実施した。その結果、6件の新規採択につながった。		・産学連携コーディネータを配置し、技術相談から共同研究・受託研究への展開を図る。 ・科研費以外の各種の補助事業に対し、シーズがマッチする教員へ申請を打診する。 ・産学連携コーディネータによる、企業向け補助金への参画支援、申請に関するアドバイスをを行う。 ・増収方策の一環として、校内の自動販売機の自営化を図る。			運営会議 地域共同テクノセンター
VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生等の改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。	—	—	—	—			—
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	・ビジネスマナー講座など、本校独自の研修を新任の教職員に対し実施する。	・新任教職員5名に対しビジネスマナー講習会を開催した。(4月実施済)		・教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。			運営会議